日本におけるポール・クローデル

― クローデルの滞日年譜 ―　Claudel au JAPON 1898・1921-1927

監　修　中條　忍　　編　集　大出　敦・篠永宣孝・根岸徹郎

発　行　クレス出版

本年譜はポール・クローデル（Paul Claudel 1868（明治元）-1955（昭和 30））が外交官として、文学者として、カトリック信者として日本滞在中にとった行動やその間の思索、そしてその結果生まれた事業や作品を多角的・多眼的にとらえることができる資料の提供を目指して編まれたものである。

ポール・クローデルは 20 世紀のフランスを代表する劇作家にして詩人であり、また世界をまたにかけて活躍した有能な外交官でもある。彼は 1921 年（大正 10）、駐日フランス大使として来日し、日仏間の政治、経済、文化の交流に最大の努力を傾け、結果として今日におよぶ両国の相互理解のもっとも深い部分を築き上げた。またその一方で、日本の古典芸能や伝統文化を愛し、能、歌舞伎、文楽に親しみ、古寺を訪れ、庭園や障壁画を鑑賞し、庶民の慎ましい日常生活にまで心を寄せ、日本の影を深く宿す多くの作品を書き残している。1927 年（昭和 2）、駐米大使として離日した後、ふたたび日本の地を踏むことがなかったが、日本の敗戦を知った 1945 年（昭和 20）8 月にはいち早く『さらば、日本』を発表し、原爆で破壊された日本への哀惜の念を狂おしいまでに吐露している。

日本は、クローデルにとってこれほど親しく、いつまでも心に残る国であった。しかし、こうしたクローデルの日本における足跡を一覧できる詳細で実証的な基礎資料は現在に至るまで存在していない。それどころか、彼の滞日に関する総合的な調査すらこれまで行われたことがない。理由は種々あろうが、おそらく諸外国における日本関係の資料の不備と日本語の問題という事情によるものであろう。

本年譜の対象とした期間は、クローデルが二回にわたり日本に滞在したすべての期間である。一回目は、上海領事館勤務時代に旅行者として来日した 1898 年（明治 31）5 月 27 日から同年 6 月 21 日までであり、二回目は、駐日フランス大使として来日した 1921 年（大正 10）11 月 17 日から駐米フランス大使として離日する 1927 年（昭 2）2 月 17 日までである。ただ、1925 年（大正 14）1 月 25 日から 1926 年（大正 15）2 月 23 日まで年譜に空白があるのは、この 1 年ほどの間クローデルが休暇で帰国していたからである。

12月25日（土）

【思索・メモ】

「クリスマス。午前1時25分。日本国天皇、嘉仁（よしひと）崩御[19]」。（J 1巻、745）

12月25日（土）－26日（日）

戸塚文卿神父を訪ねる。V.ススマンは、呻くような悲し気な声で話し、聞き取りにくい。静物画のような部屋。『ジャック・リヴィエールとアラン＝フルニエの往復書簡』（Gallimard 1926）を読み、感動する。（J 1巻、746）

【思索・メモ】

カトゥルスの詩85「私ハ憎ミ愛スル」をラテン語で引用。「物書き以前のドストエフスキー」と付記。（J 1巻、746、1407）

J.-P.レイ東京大司教によれば、異教徒の女性は子供を背負うが、日本ではキリスト教徒になると子供を腕に抱く。（J 1巻、746）

「一匹の犬が幽霊に吠えてもそれはただの幽霊だが、一万匹の犬が吠えるとそれは現実になる（中国の諺[20]）」。（J 1巻、746）

「神の愛のいきつくところは、むしろ神のまえで身を空しくすること［……］（マリ・デ・ヴァレ）」。（J 1巻、746）

「伝統ニヨッテ受ケ継ガレナイモノデ新シイモノハ何モナイ」という古いスコラ学派の諺をラテン語で引用。（J 1巻、746、1407）

「回宗して40年[21]。［……］リュシアン・オットとコンフラン＝サント＝オノリーヌ町の老聖歌隊員[22]はどうしているのか」。（J 1巻、746）

『ジャック・リヴィエールとアラン＝フルニエの往復書簡』（Gallimard 1926）の感想。（J 1巻、746）

問題の解決と意志の決定。（J 1巻、746）

12月27日（月）

【思索・メモ】

皇居に運ばれ、殯宮（あらきのみや）に安置された大正天皇とその時の様子について。（J 1巻、747）

【書簡】

フランス外務省宛（公電第86号）

日本外務省の情報によると、大正天皇の大喪儀は早くとも崩御後50日経過しないと行われないので、そんなに長く待つことはできないと記し、後任が2月初頭に来日して任務を果た

19）事実、大正天皇は1926年12月25日に崩御。

20）王符『潛夫論』。

21）クローデルは1886年12月25日にノートル-ダム大聖堂で啓示を受け、「私は信じた」（Pr、1010、翻訳中條、278）と言っている。

22）1922年12月25日を参照。

23）この公電第86号に答えて、フランス外務省は1926年12月29日付クローデル宛公電第95号で日本滞在を延長し、フランス政府を代表して葬儀に参列するよう要請する。（AMAE、P）

日本におけるポール・クローデル

●滞日年譜、解説、年譜、世界の情勢、資料略語一覧、クローデルの著作翻訳書略語一覧、フランス外務省史料館所蔵外交文書現行請求番号一覧、主要参考文献、索引

●B5判／五〇〇頁・口絵八頁／カバー付・函入り

●二〇一〇年十二月末日刊行　定価九、五〇〇円（税別）

株式会社 クレス出版
東京都中央区日本橋小伝馬町14-5-704
☎〇三-三八〇八-一八二一
FAX〇三-三八〇八-一八二二

注文書	書店印	冊	中條　忍 監修	株式会社 クレス出版 発行	定価本体九、五〇〇円	年　月　日
			日本におけるポール・クローデル			
			ISBN978-4-87733-562-5 C3098 ¥9500E			